

学校支援を積極的に進めよう

～学校の活動に積極的に関わり、生徒の健やかな成長を支えるPTA活動～

豊橋市立吉田方中学校PTA

〈研究の仮説〉

PTAが、学校行事や各活動に、主体的に参加する機会を計画的に設定し、学校と連携して活動していけば、教育活動を支える力となり、生徒の健やかな成長に寄与することができるだろう。

1 学区及び学校の概要



豊橋市の西部に位置
創立75年目を迎える一小一中の学校

《豊橋市立吉田方中学校》

全校生徒440名、各学年4学級、特別支援学級3学級からなる中規模の学校

〈校区について〉

住民の流入が著しい地域と新田開発時から数世代にわたって暮らす地域の両面をもち、保護者自身も吉田方中出身者という場合が比較的多い。校区が広く、新栄地区、菰口・野田地区では校区学校選択制が導入されていて、吉田方校区に住んでいるものの子どもは隣の中学校に通っているなど組織的に難しい面がある。

〈生徒について〉

・全体的に素直で温厚な明るい生徒が多い。
・『吉中プライド』を合言葉に、「挨拶・無言清掃・時間を守る・歌声」のそれぞれの活動に取り組み、日々努力を重ねている。

〈PTAについて〉

PTAは、役員7名の企画立案のもと、実行委員8名・委員44名の計52名で組織された4部会（総務部、広報部、生活部、文化保健部）を中心に、年間計画に基づいて活動している。



2 P T A 活動の実際

〈吉中 P T A が、Instagram を始めました！〉

本年度より、校区自治会回覧板による情宣に加え、Instagram による情宣活動を始めた。情宣する内容は、「資源回収」「納涼祭」「吉中バザー」などの案内である。回覧板に比べ、タイムリーに案内でき、写真などもたくさん掲載できるメリットがある半面、登録者数がなかなか増えていかない現状がある。今後は登録者数を増やすような取り組みも進めていきたい。



〈年 3 回の資源回収〉

資源回収は、年 3 回、吉田方小学校 P T A と協力し合同で開催している。校区 30 か所に回収ステーションを設け、そこに運ばれてきた物品を、P T A 委員が本部の回収ステーションに運ぶという方式で実施している。昨年はコロナ対策として、校区の方が本部の回収ステーションに、直接運び込むドライブスルー方式を取り入れたが、今年は例年の方式に戻し実施することにした。この資源回収で得た収益は、吉田方中学校生徒の活動の支援金として活用している。

〈カヌー体験活動支援〉

校区を流れる雄大な自然「豊川」を舞台に、脈々と続いてきた吉田方中学校が誇る伝統行事のカヌー体験。地域の中で地域の人たちとともに活動し、「地域に学ぶ」とても意義のある行事である。準備から練習、そして本番に至るまで、さまざまな立場の人たちが関わって実施している。「パドル操作練習会」では、アウトドアショップの方が、カヌーの乗降の仕方や効果的なパドル操作の方法を指導し、「応急手当プログラム講習会」「水難事故防止講習会」では、消防署の方が、水の怖さ、水に入る際の装備や心構え、救急救命の方法を指導している。その後、学校での「プール練習会」、豊川を横断する「豊川練習会」を経て、「カヌー体験本番」に臨む。6 区間約 4 km の行程を一人一人が懸命にパドルをつなぎ、2 年生全員で制覇する。本番当日は、カヌーで伴走してくれる支援者、沿道より声援を送ってくれる保護者、そして救助艇を出してくれる地域の人、救助要員として救助艇に乗る P T A 委員、大勢のみんなで支援している。自然の恵みや脅威、仲間との絆、地域や P T A の協力等、体験を通して学ぶことのできる行事であり、活動を行う 2 年生にとって、真の「吉中生」になるための通過儀礼になっている。



〈吉中PTA一品寄付バザー〉

PTA一品寄付バザーは、長年続いている活動の一つで、毎年11月の第2日曜日に開催している。毎年、事前にPTA役員・実行委員が校区内の商店や会社等を訪問し協力要請を行い、PTA委員は各家庭を戸別訪問し、たくさんの寄付品を集めている。バザー前日の土曜日は、終日、商品の袋詰めや値付け作業をし、準備を行う。主な商品は、「タオル・寝具」「衣類・靴」「野菜・果物・花苗」「食料品」「陶器類」などである。バザー当日は、PTA役員・実行委員・委員の他に、特別支援学級の生徒とボランティアの生徒を加えた総勢約100名のスタッフで運営している。しかし、ここ2年間は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止を余儀なくされ、今年は3年ぶりの開催となる。開催するにあたっては、まだコロナ禍という観点から、例年行っている各家庭を戸別訪問しての寄付品収集をとりやめ、商店や会社等からの寄付品、安く手に入れた野菜や果物、鰻などの食品類の販売に絞って開催することにした。このバザーで得た収益は、吉田方中学校生徒の活動の支援金として活用している。



3 成果と今後の課題

コロナ禍において活動が制限され、例年のように子どもたちと関わりながら活動する機会は減ったものの、子どもたちのために活動するという気持ちの部分は決して減ることはなかった。学校と連携して活動することを通して、学校や子どもたちをより深く理解することができ、学校を支援しているという意識を高めることができた。今後は、新型コロナ収束を願いつつ、PTA委員だけでなく、より多くの保護者がそれぞれの活動に参加し、活動の中で保護者と教職員が良好な人間関係を築くことで、子どもたちの健全な成長の一助になればと考える。